

あわら市定例記者会見

平成24年1月5日(木) 10:00～

あわら市役所 204会議室

記者懇談会(会見終了後)市長応接室

1 市長施政報告

○年頭あいさつ

- (1) 北陸新幹線着工決定とまちづくりについて
- (2) H E E C E 構想への取組について
 - ・「健康」
 - ・「教育」
 - ・「環境」
 - ・「コミュニティ」
 - ・「経済産業」
- (3) 学校給食センターの建設について
- (4) (仮称)生涯学習館の整備について
- (5) 幼保一体化の取り組みと幼児教育の推進について
- (6) 今後の市政運営について

2 1月のイベント、主な行事予定等について

8日(日) 13:30～	平成24年あわら市成人式	(グランディア芳泉)
9日(月) 9:00～	第29回B&G会長杯剣道大会	(トリムパークかなづ)
14日(土) 9:30～	嶺北消防組合出初式	(丸岡ふれあい広場)
17日(火) 10:30～	年賀はがきデザインコンクール審査会	(湯のまち公民館)
〃 14:00～	地域公共交通会議	(正庁)
19日(木) 13:30～	総合振興計画審議会	(正庁)
25日(水) 11:00～	おばあちゃんの味試食会	(子育て支援センター)
26日(木) 16:00～	中学校国際交流事業派遣団報告会	(正庁)
27日(金) 14:00～	あわら市区長会議	(正庁)

1 アンケートの概要

(1) 調査対象者

住民基本台帳から年齢、地区等のバランスを考慮しながら無作為で抽出した2,000人の市民

(2) 調査方法

郵便による発送、回収

(3) 調査期間

平成23年4月～6月（調査の設計、発送、回収）

平成23年7月～11月（入力、集計、分析）

(4) 調査結果

配布数 2,000票

回収数 1,041票

回収率 52.1%

2 分析結果

(1) 質問事項

アンケートは、回答者の性別、年齢、居住地区等に始まり、あわら市に対する愛着度や今後の居住の意向、市の施策等に対する評価を尋ねる形で構成した。

各設問の内容は次のとおりである。

問1 性別、年齢、住んでいる地区、居住歴、家族構成

問2 あなたはあわら市に愛着を感じていますか？

問3-1 あなたはこれからもあわら市に住み続けたいと思いますか？

問3-2 あわら市に住み続けたい理由は何ですか？

問3-3 転出したい（住み続けたくない）理由は何ですか？

問4 (1) 道路や空き地にごみなどが少なくまちが清潔であると思いますか？

(2) 豊かな自然に恵まれていると思いますか？

(3) ごみ減量化や資源リサイクルが進んでいると思いますか？

(4) 市民の健康維持・健康づくりなどへのサポートが進んでいると思いますか？

(5) 高齢者や身体に障がいのある人が生活しやすいまちだと思いますか？

(6) 保育や相談事務などの子育て環境が充実していると思いますか？

(7) 保育所や幼稚園・幼稚園における幼児教育が充実していると思いますか？

(8) 小・中学校の施設が充実し、学習しやすい環境が整備されていると思いますか？

(9) 生涯を通じた文化活動や学習の機会が充実していると思いますか？

(10) 手軽にスポーツに親しめる環境が整っていると思いますか？

(11) 道路が効率的・効果的に整備されていると思いますか？

(12) 公共交通機関が効果的に運行されていると思いますか？

(13) 芦原温泉駅周辺や温泉街などの市街地ににぎわいがあると思いますか？

(14) 景観に配慮したまち並み整備が行われていると思いますか？

(5) 環境について

『(1)道路や空き地にごみなどが少なくまちが清潔であると思いますか』という問いに対して、「そう思う」「どちらかというと思う」(以下「肯定指向」という。)とする市民が56.1%であるのに対し、「そう思わない」「どちらかというと思わない」(以下「否定指向」という。)とする市民も40.4%あり、比較的肯定指向が多いものの、大きく二つの意見に分かれている。これは、年齢別、地区別で見てもほぼ同様の結果となり、環境に対する感性が個人ごとに異なるためではないかと推測される。

また、『(2)豊かな自然に恵まれていると思いますか』との問いには、実に90.5%の市民が肯定指向を示しており、ほとんどの市民があわら市には豊かな自然があると考えているのがわかる。

『(3)ごみ減量化やリサイクルが進んでいると思いますか』には、肯定指向が50.3%、否定指向が39.7%で、こちらも意見が分かれる結果となった。

(6) 健康・福祉・子育て支援について

『(4)市民の健康維持・健康づくりなどへのサポートが進んでいると思いますか』の問いには、肯定指向が56.5%、否定指向が28.0%と、多くの市民が市の健康づくりへのサポートが適切であると考えていることがわかる。これを年齢別に見ると、20代から40代までは肯定指向が40数パーセントで推移しているのに対し、50代で53.5%、60代で62.8%、70代で72.6%と、年齢を追うごとに高くなるなど、健康づくりへのサポートを必要とする年齢層の肯定意見が多いことから推測できる。

次に『(5)高齢者や身体に障がいのある人が生活しやすいまちだと思いますか』の問いには、肯定指向が33.8%であるのに対し、否定指向が52.2%と、多くの市民が高齢者や障害者にとって必ずしも暮らしやすいとは考えていないことがわかる。

『(6)保育や相談事務などの子育て環境が充実していると思いますか』では、肯定指向が45.0%、否定指向が22.7%で、『(7)保育所や幼稚園・幼稚園における幼児教育が充実していると思いますか』では、肯定指向が49.2%、否定指向が16.7%と、市の子育て支援や幼児教育のあり方に対する肯定意見が多かった。また、両設問とも「わからない」という回答が30数パーセントと、他の設問よりも多いことから、子育て支援や幼児教育については、サービスの直接の受益者以外には見えにくいものであることがわかる。

なお、健康づくりや子育て支援に対して肯定的な意見が多いのは、平成22年からスタートしたHEECE構想による「健康」「教育」といった分野の事業が広く浸透し、成果を上げているためであると推察される。

(7) 教育・文化について

『(8)小・中学校の施設が充実し、学習しやすい環境が整備されていると思いますか』という問いでは、肯定指向が50.7%、否定指向が19.8%と、学校教育施設が充実し、教育環境が整備されていると考える市民が多いことがわかる。これは、平成20年度から進めてきた小中学校の大規模改修と耐震補強工事が完了し、市内全ての小中学校において耐震化を実現できたことが大きいと思われる。

岳地区で61.3%、細呂木地区で60.5%であるのをはじめ、8つの地区で50パーセントを上回っている。

『(17)犯罪が少なく安心して暮らせるまちだと思いますか』という問いには、肯定指向72.7%、否定指向21.9%と、多くの市民があわら市は防犯上安全であると考えていることがわかった。地区別でもほぼ同様の結果となった。

『(18)消費者保護対策が充実していると思いますか』という問いには、肯定指向21.6%、否定指向33.7%となる一方で、「わからない」が44.7%と、消費者行政そのものが市民に浸透していないことが推測される。

『(19)日用品などの買物がしやすいと思いますか』という問いには、肯定指向が53.4%、否定指向が45.1%と、結果が大きく二つに分かれた。これを地区別で見ると、肯定指向が、山方・里方地区で65.4%、金津地区で62.1%、本荘地区で62.0%、伊井地区で59.6%などとなっているのに対し、否定指向が、吉崎地区で80.0%、劔岳地区で58.4%、坪江地区で57.5%などと、地区によって差異が認められる。

(10) 就労・観光について

『(20)働きやすい環境が整っていると思いますか』という問いには、肯定指向が29.8%、否定指向が53.6%と、厳しい就労環境を反映したためか、否定意見が肯定意見を上回った。

また、『(21)観光地としての魅力があると思いますか』『(22)観光情報などが効果的に発信されていると思いますか』という問いには、肯定指向がそれぞれ15.0%、14.5%、否定指向がそれぞれ78.8%、71.6%といずれも否定意見が肯定意見を大きく上回った。基幹産業の一つである観光について、あわら市の資源やその魅力が広く市民に浸透していないことがその要因と考えられることから、今後もこうした資源の魅力発信に努めていく必要があると思われる。

(11) 市民参画・広報について

『(23)市民の声が市政に届き、市民参画の機会が充実していると思いますか』という問いには、肯定指向が14.4%、否定指向が62.1%と、否定意見が肯定意見を大きく上回った。これを年齢別に見ると、いずれの年齢でも否定意見は多くなっている一方で、「わからない」も20代で36.2%となるなど、まちづくりに対する参画自体が市民にあまり浸透していないことが推測される。

『(24)広報紙やケーブルテレビ、インターネットなどを通じて行政情報が分かりやすく公開されていると思いますか』という問いには、肯定指向が46.2%、否定指向が29.5%と、多くの市民が行政情報は適切に発信されているとしている。今後もSNSなど新しい手段を効果的に活用しながら、市政情報の発信に努める必要がある。